

史跡池上曾根遺跡を未来に伝えるために
—史跡池上曾根遺跡再整備計画—

追加項目

2024年 8月

和泉市教育委員会
泉大津市教育委員会

2022年3月に策定した史跡池上曾根遺跡を未来に伝えるために一史跡池上曾根遺跡再整備計画一（以下、再整備計画）で定めた第2期第2次整備事業に以下の整備内容を追加する。

整備の最終目標は『史跡池上曾根遺跡整備基本設計』（1994年策定 2008年改訂）で示された基本設計平面図に従って進め、ゾーニングに関しては、『史跡池上曾根遺跡整備基本設計』で示され、『史跡池上曾根遺跡を未来に伝えるために一池上曾根遺跡再整備計画一』（2022年3月）で確認、設定したゾーン区分に従う。

第2期第2次整備事業に追加する対象地

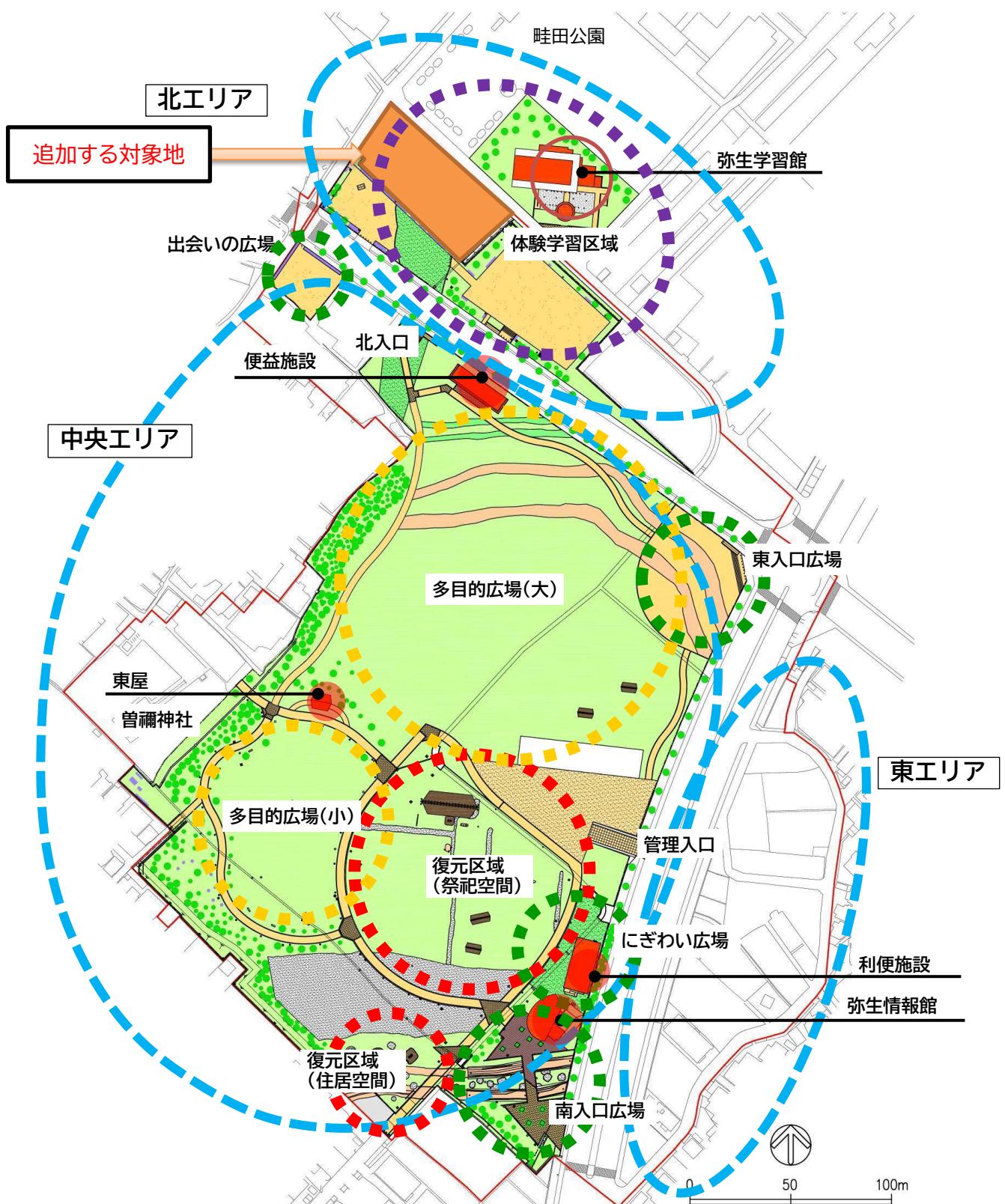


図1. 再整備ゾーニング図（再整備計画図4-1 再整備ゾーニング図に追記）



図 2. 時期別整備エリア図
(保存活用計画図 10-1 時期別整備エリア図を修正)

整備方針

北エリア

体験学習空間・・・弥生時代に関することを実際に体験しながら学ぶことができるエリア。

ゾーン名	整備方針	主な施設
第1期整備地	体験学習区域 体験で弥生時代の技術をまなぶ 池上曾根遺跡について体験を通じて学ぶための施設、設備を整える。 弥生学習館は、泉大津市の畦田公園に隣接するところから、公園と連携した管理運営を目指す。 弥生時代の稻作を体験するための水田を整備し、環濠の外側に生産域が広がり、池上曾根遺跡の人びとが、空間を目的別に使い分けていたことを示したうえで、体験学習の充実を図る。	・弥生学習館 ・体験の広場 ・自然流路平面表示 ・多目的広場 ・手洗い場
第2期整備地	体験学習区域	・体験水田 ・東屋

個別計画

体験施設

既存の体験の広場を拡張し、多目的に利用できる広場と弥生時代の稻作について学ぶ復元施設として体験水田を設置する。第1期整備地に整備した自然流路平面表示との連動性を考慮しながら、デザインと工法の検討を行う。弥生時代に近畿地方で行われた稻作の手法について学術的な観点から検討ができるなど、体験だけにとどまらない活用方法を模索する。

活用にあたっては、年間を通して田植え、稻刈りなどを講座形式で実施するなどの事業を展開していく。

体験水田

(整備－新設)

弥生時代の稻作を体験できる水田を整備する。

- ・田植え、稻刈りなど一年をとおして、稻作体験講座を実施する。
- ・体験学習講座で、大勢で作業することを想定した整備とする。
- ・児童・生徒が活用しやすいよう配慮する。
- ・水田の日常管理は地元の協力会に管理してもらうことを想定する。
- ・地元協力会や体験学習参加者らとともに日常の管理作業を行い、地域で愛される場を目指す。

東屋

(整備－新設)

日差しが強い、雨天など、連続した野外活動を阻害する天候の際に利用する施設として整備する。

- ・東屋やそれに類する休息に利用できる建築物を設置し、野外での体験学習講座実施の際だけでなく、日常的に地域住民が利用できるように検討する。
- ・体験水田にかかわる地域の人びとが、水田の日常管理作業等の際に利用しやすいよう、必要な設備について検討する。
- ・この周辺で、稻作に関する農具についての体験学習などを実施する。

事業スケジュール

表1 体験の広場拡張タイムテーブル

	2024（令和6）年度	2025（令和7）年度	2026（令和8）年度	2027（令和9）年度
整備	体験の広場拡張 基本・実施設計	整備工事施工	体験水田の整備と日常管理の継続	
活用	仮水田における稻作体験		整備した体験水田での稻作体験事業実施	

第2期第2次整備イメージ図



図2. 第2期第2次整備イメージ図

(再整備計画図 5-1 再整備・第2期第2次整備イメージ図(平面図)に追記)



図3 第2期第2次整備イメージ図(鳥観図) (図5-2再整備・第2期第2次整備1イメージ図(鳥観図)に追記・修正)

史跡池上曾根遺跡を未来に伝えるために
—史跡池上曾根遺跡再整備計画—
追加項目

2024（令和6）年8月31日

編集・発行：和泉市教育委員会
大阪府和泉市府中町二丁目7番5号

泉大津市教育委員会
大阪府泉大津市東雲町9番12号